

テキサス A&M 大学との学術研究に関するテレビ会議を開催しました。(2013/01/05)

場所：工学部、多賀城市、テキサス州

テーマ：ロボットを災害医療でどのように活用したらよいか

1 月 5 日（土）8:00—9:00 工学部機械知能系共同棟と多賀城市にある仙塩病院、テキサス A&M 大学の 3 地点を結んでテレビ会議を開催しました。Robin Murphy 教授は Raytheon Professor of Computer Science & Engineering であるだけでなく、Center for Robot-Assisted Search and Rescue, Center for Emergency Informatics / Emergency Informatics EDGE の Director でもあります。昨年 12 月に開催された災害ウォッチャーでの Murphy 教授の講演に多いに触発された災害研との間で共同研究を行い、ロボットがどのように災害時の人命救助、支援に活用できるかということに関して意見交換を行いました。

当日は、Google hangout を利用し、お互いの Google+ アカウントがわかっていたら簡単に多地点でのテレビ会議が開催できるというシステムがとても有効に働きました。日米の時差はありますが、日本の朝 8:00、テキサスの夕方 17:00 という時間に始まり約 1 時間の有意義なディスカッションがなされました。このようなテレビ会議システムが無料でどこからでも簡単に利用可能な状況になってきたことは、災害時のコミュニケーションツールとしても歓迎すべきだと思います。

テキサス A&M 大学はヘリコプター型ロボット、水中を探索できるロボット、狭いところに入り込めるロボットなどの技術をすでに人命救助に実利用しており、東日本大震災、9 11 ニューヨークテロなどの教訓を元に、大規模災害、テロ、事故に対する対応のあり方、ロボットの役割、センシング・シミュレーション技術への期待などが議論されました。

ロボットを操作する技術者と目的達成のために指示を出すチームの形成、大規模災害時に効率よく搜索活動を行うための戦略、ビルなどに閉じ込められた人をどのように検出するかなどさまざまな課題が抽出され、共同研究の機運が盛り上がりました。今後、国際共同研究・教育（グローバル安全学など）の連携の強化に向けて、議論を深めて行く予定です。



IRIDeS メンバー：3 地点での TV 会議



Texas A&M 大学メンバー：中央 Murphy 教授

文責：江川新一（災害医学研究部門）、今村文彦（災害リスク研究部門）